

ポントレモーリ (Pontremoli)

今回は無印の街に行って来ました。先日、サルザーナに行った時の列車が通った街です。列車から見た景色がとてもきれいなので行ってみようと考えて、インターネットで調べたところ、ちょっとした観光地なので、今回訪ねたわけです。大きな期待はしていなかったのですが、予想外に素晴らしく期待を大幅に上回りました。パルマの南、パルマとラ・スペツィアの中間の山の中に位置しています。北の境界はアペニン山脈に接し、2000メートル近いアプアン・アルプスの麓のマルガ川溪谷にあり、正に、山の中の街を絵に書いたようなところですが、現在の人口は8000人ほどで、決して小さな村ではありません。この街はエミリア・ロマーナ州とリグリア州の間にあるのですが、何故かトスカーナ州に属しています。私にとって初めてのトスカーナ州への日帰り旅行となりました。それにしても、何故、こんな山奥にこんな街ができたのかという疑問がわいてきます。

ポントレモーリは紀元前1000年くらいから人が住みつき、考古学的に貴重な石碑がいくつも発見されています。ローマ時代には、南にあるLuniの支配下でアプアン (Apuan) と呼ばれて、Lunigiana地方の街として既に知られていました。と言うのも、ここをローマからイギリスのカンタベリーまで繋がっているFrancigena街道が通っているからです。カンタベリーからローマへの巡礼の通過点として中世にも引き続き発展し、13世紀初頭には自治権を得た街となっています。

フィデンツェ (パルマ) からラ・スペツィアを結ぶこの列車は、昔のFrancigena街道に沿って走っています。周りを山に囲まれた溪谷を走るこの列車は、素晴らしい景色の連続です。また、ポントレモーリ以外にも、街道沿いにはいかにも魅力的な古い街が点在しています。

この日は生憎の曇り空で、朝の10時過ぎにポントレモーリの駅に着いたのですが、今にも雨が降り出しそうな暑い雲に覆われていました。駅から5分ほど歩くと、マルガ川にかかる古い橋（でも、その名はポンテ・ヌオーヴォと言って、この街では新しい橋）を越え、旧市街に入ります。旧市街は、マルガ川とその先のヴェルデ川の間の中州のようなところにあります。従って、自然の川によってこの街は防衛されていたのです。



旧市街の中心はレプフリカ広場とドゥオモ広場です。この2つの広場を分けるように高い市民の塔が立っていて、2つの広場を見下ろしています。

北にある小高い丘の上にはこの街とFrancigena街道の防衛に当たったお城があります。Lunigiana地方の中では一番大きなお城でCastello del Piagnanoと呼ばれています。Piagnanoとは、石という意味ですので、単純に石のお城と呼ばれているのです。9-10世紀に建てられ、何度か破壊されたり建て直されたりしていますが、現在のお城は14世紀初頭に建て直されたものです。城まで行った

ころには、あれだけどんよりしていた空に青空が広がりだし、すっかり、雲が切れてしまいました。



城の中には博物館があり、4ユーロで博物館と城の中外を自由に回ることができます。博物館には、この近くで発見された、紀元前8世紀から6世紀頃にここに住んでいた民族（ケルト人或いはリグリア人だと思います）の石碑が展示されています。ローマ時代の彫刻に比べるとかなり幼稚なものですので、明らかにローマ人とは違う考古学的に貴重なものであるような気がします。丘の上の城の更の上に登ると、周りの美しい景色と旧市街を一望できます。この頃には空は快晴になり、アプアン・アルプスまで見渡すことができました。2日続けて、山の景色を楽しんだわけですが、山の中の街から見る山々の景色は、また違った景色であり飽きることはありません。





城からは、迷路のような旧市街の細い下り坂の路地を降りていきます。生活感を感じる旧市街の細い路地を歩くのは興味があり、周りの石造りの家を見ながら楽しんで降りてきました。なぜかほとんどの家が城と同じ石造りですので、どこまでが城又は城壁でどこから住居なのかわからなくなります。同時に、方向もまったくわからなくなりましたが、とにかく下に降りていけば何とかなると思っていたら、ちゃんと、ドウオモ広場に出てきました。旧市街から城へと続く細い路地はいくつもあるようで、その間には街の人の石造りの住居がひしめいています。街に出てくると当然のようにそこには古い教会があります。ポントレモーリは教会が多い街でもあります。



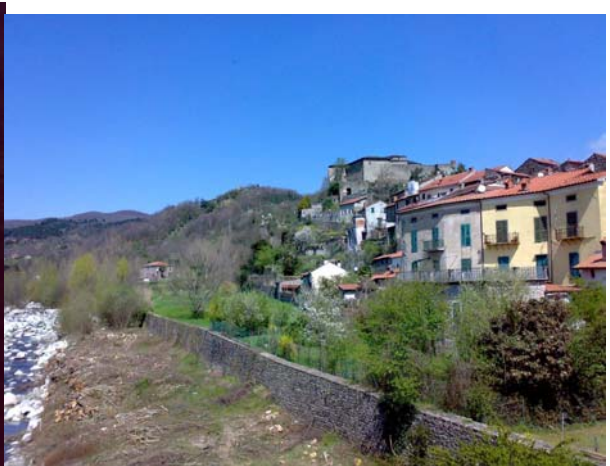
今度は、街のメイン通りを北に歩いて行きますと、街の入り口である立派なパルマ門があります。こ

の門も城の一部のような立派な門で、多分、城と同時期に建てられたものとおもいます。この門の右上に、丘の上にある城が見えています。まるでこの門を通る旅人を見張っているようです。



もう一度旧市街に戻り、ドゥオモ広場からもう一つの川であるヴェルデ川に向かいました。川向こうは新市街となりますが、川沿いに 16 世紀の修道院もあり、川沿いはまだ旧市街の一部のようです。川にかかっているこの如何にも古い橋は、ローマ時代までは遡りませんが、中世に建てられたようです。幅も狭い石の橋で歩行者専用の橋となっています。橋を渡って、川沿いの修道院の前を通ると、今度はまた旧市街に繋がる同じような古い橋があります。この道はずっとヴェルデ川沿いで景色も環境も良いすがすがしい散歩道です。この街には、最初に渡ったポンテ・ヌオーヴォを含めて合計 3 本の古い橋がありましたが、それぞれの橋に趣があり、これらの橋を見て回るのもこの街の観光スポットの一つです。橋の旧市街側には必ず城塔が建っていて、昔は橋を渡って旧市街に入る人をこの城塔から見張っていたのだと思います。この街の名前の由来は、“ポンテ”と“トレモーリ”の 2 つの言葉から出来ていて、“揺れる橋”との意味があるそうです。でも、実際の橋は、石造りで頑丈そうなので揺れるとは思えませんが、川が氾濫したときのことなのかもしれません。要するに、これらの橋がこの街のシンボルとなっているのです。ポントレモーリ駅に列車で入る直前のトンネルの手前にも、古い石の橋を見ることが出来ました。その橋の真ん中には城塔が建っていて、なかなか趣のあるものでした。この地域には、他にも同じような橋がいくつもあるのかもしれません。





山に囲まれた川沿いの溪谷にある中世の街、ポントレモリーは非常に気に入りました。こんな街に来る日本人は多分1年に1人くらいしかいないでしょう。でも、山の中の静かで落ち着きのある中世の街を見たい人には絶対にお勧めできます。100%満足すると思います。

いつものように、旅程を説明します。今回は、ロゴレドを7時33分発のボローニャ行きのレジョナーレでフィデンツェまで行き、そこからラ・スペツィア行きのレジョナーレに乗り換えます。フィデンツェまでは1時間10分、フィデンツェからは1時間5分です。料金は11.1ユーロで、所要時間は乗り継ぎも入れて2時間45分でした。ロゴレドを6時59分発のレジョナーレに乗るとフィデンツェで乗り換えなく直通で行くことができますが、所要時間は2時間50分かかります。

帰りは、同じルートでは帰れません。どうも、この列車は午前中にはフィデンツェ経由ですが、午後になるとこの路線の全てがパルマとラ・スペツィア間となってしまいます。従って、ポントレモリーからパルマまでレジョナーレ（1時間間隔）で行き、そこでミラノに向かう列車に乗って戻ることになります。全てレジョナーレを使いますと料金は12.6ユーロとなります。でも、パルマからなら、頻繁にある普通列車（直通及びピアチェンツァ乗り換え）の他にも、ESや日曜日には臨時のICまでありますからフレキシブルに列車を選ぶことができます。それに、芸術と歴史と食べ物の街パルマでは、列車待ちで出来てしまった1,2時間くらいの時間つぶしは訳ないことです。